

町雑誌

千住

Senji

■特集■

ネコの眼路地歩き

■特集■

とびっきりの日本の暮らし

千住の1年の楽しみ方

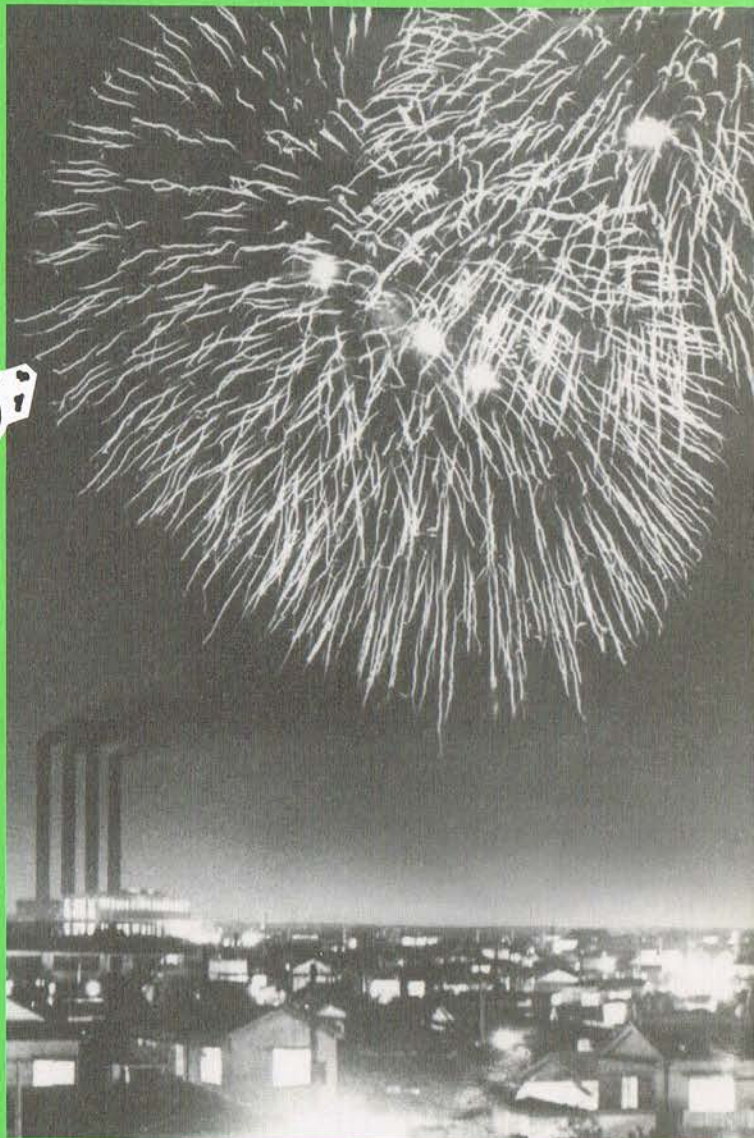
PART2

PART1

■連載■

なるほど！千住①
千住史上の職人①
千住 20sの風景①
千住明治の女伝③
千住蔵の町⑥
千住タイムトラベル④

頒価三〇〇円



保存版



VOL. 10

MachiZasshi Senju

ネコの眼路地歩き

※路地は基本的に私道です。マナーを守って歩いてね



路地を歩く。

ネコになった気分で、興味のおもむくまま匂いをたどって路地から路地へ渡り歩く。

あるものはくねくねと折れ曲がり

あるものは味な石畳の路面で魅了し

はたまたジャングルに迷いこんだがごとく

緑が生い茂る。

そこには日々の生活に根付いた暮らしが

今日も営まれている。

ネコの眼になって歩いたみたら、

知らなかった、いろいろなお宝が隠れていた。

今回はまず、千住3丁目あたりの路地・横丁を散歩。

旧日光街道から魚の骨のように左右にのびる路地群は、

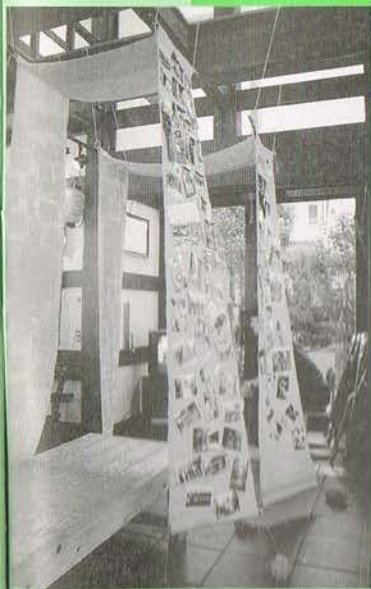
旧道に平行して走るもと用水路だった街路まで続く。

街道に面する間口が狭く、奥に細長い町割り

江戸時代、宿場町だった町割りのなごり。

こころの眼を全開にして、ふらり、

時間と空間のエアポケットに、迷い込んでみよう。



目次



特集 ネコの眼 路地歩き PART 1

路地をよみとくキーワード『医』 1

路地をよみとくキーワード『職』 2

路地をよみとくキーワード『甘』『食』 3

路地をよみとくキーワード『憩』 4

横丁今昔物語 6

路地考現学 8

千住3丁目の路地マップ 10

特集 とびっきりの日本の暮らし

千住の1年の楽しみ方 PART 2 12

柳原さくらまつり【桜が満開の時期の週末】 12

緑町・柳原七夕まつり【7〜8月】 13

富士塚の山開き【6月30日〜7月1日】 14

千住の花火【7月末】 16

盆踊り大会【8月の第一土日】 18

千住の縁日【1月〜12月】 19

連載

なるほど！千住① 牛乳配達のはなし 22

連載

千住史上の職人① 伊豆の長八 24

連載

千住にひとこと 27

連載

千住20sの風景① 伊佐次茂伸 28

連載

千住明治の女伝⑧ 松本はる 30

連載

千住蔵の町⑥ Autumn Adventure 1999 報告 31

連載

お願いなど 32

連載

千住タイムトラベル④ 露店 32

裏表紙

PART 1

医

千住3丁目という狭いエリアの路地、横丁に、内科4軒、歯科2軒、皮膚科1軒、動物病院1軒発見。医者のかん板がとても多い。

●潤田歯科 千住3・50

3881・2572

ササキ果物店の脇の路地に入ると、煉瓦塀が続くエアポケットのような空間にたどり着く。丸い窓、豊富な緑、ドアを開けるとモザイク



古くから路地には職人が多かった。今回の取材で「昔は職人の家が続いていたんだよ」という路地にも出会ったが、今は減っているようだ。今も千住の路地に多い染物店などを訪ねてみた。

●三河屋染物店 千住3・23

3881・6026

路地の奥に三河屋染物店と書かれた暖簾が揺れる。明治初期、千住で最初の洋服屋だった先々代に、浅草の染め物屋からお嫁さんがきて、現在の御主人で染め物屋は2代目。昔は旧道沿いの店々の裏は

畑にたんぼ、原っぱ。広い空間が広がっていたそう。そこに広い作業場



3代目潤田真先生と、お母さんで助手のトキさん

クタイルの敷き詰められた玄関。昭和4年築の洋館、潤田歯科だ。初代潤田基氏は、奄美大島から出てきて東京歯科大学（前身）へ入学。苦学生するとき当地に暮らし、大家の娘だった鈴さんと恋におち、一旦は他地で開業するが、結婚して現在の場所へ戻る。2代目の和男さんも、



家を大切にしてくる手入れしていたそう。現在の先生は、丁寧な治療で評判の3代目、潤田真さん。3代続いて東京歯科大学の出である。お母さんのトキさんが助手をするが、トキさんが嫁に来た頃には書生もいて賑やかだったという。診察室の三角窓や、階段のバステル色の木の手す

●加藤製作所 千住3・61
3881・4879
路地のなかほどに、加藤製作所という筆文字描きの看板を見つけた。訪ねてみると、医療用の革、布製品を作っているという。現在

主に作っているのは、血圧測定帯（血圧を測る際に腕に巻くもの）マジックカフ。日本でシェアNO.1のアコマ医科工業に卸している。もともと浅草で仕事を始めた初代加藤徳之助さんは、戦災で焼け出されて千住に来た。



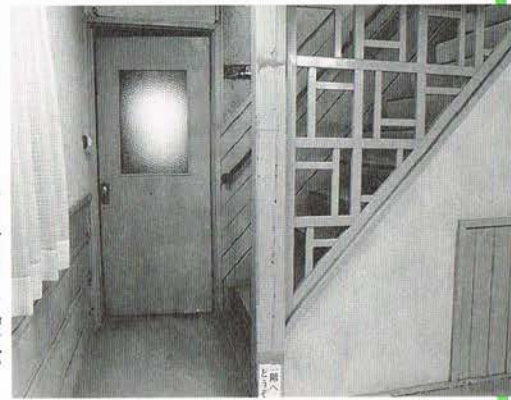
加藤製作所のある路地は当時職人の長屋が続く、活気ある路地だったそう。徳之助さんもこの一棟を借り、仕事を始めた。昔は往診用の靴なども作っていたという。基本的には卸し専門だったが、近所の医者には直接売っていたとい

年から10年に一度は水につけたほうが絹糸が再生し長く着ることができるようだ。家族全員がきもの好きで、お客は親の代からつきあ



人も多い。最近はお茶や踊りなどお稽古ごとのきものが多いそう。また入口に飾られた、四季折々のちりめん細工はおかみさん特製。針刺しの「千寿鶴」は千住新名物。店頭で購入できる。

そこに広い作業場



食

路地、横丁に美味
いもの発見。表
通りからは見え
ないところには
在し、「知る人
ぞ知る」秘密。
つぼさが魅力。
表だった主張
をせず、長
年商売が続
くには、
何かある
はず。

●青柳豆腐店 千住352

38812762

「うちの豆腐は『ぐれ豆腐』って呼ばれてたんだよ」…ニヤリ、ご主人が笑う。創業元治元年、千住で豆腐屋を始めて16代という青柳豆腐店は、もともと旧道沿いに店を開いたが、多少『ぐれ』気味で、様々に『個性的』な先祖を経て、現在、お宮さんの前（本氷川神社前の横丁）に至る。「昔豆腐屋は、てんびんかついで行商に出ていたので、場所はどこでもよかったんだ。親父の代にいた若い衆は、お

●可野製菓 千住3168
388811877
ドロップがコロコロ、次々と飛び出してくる。ここは初代可野幸吉さんがもともと暮らしていた場所で、復員後始めたドロップ工場だ。当時は、作って上野のやみ市、アメヤ横丁に持っていきばいくらでも買ってくれたのだという。アメ横には一時300軒近いアメ屋が軒を並べ、全国からアメを買いに来たそう。現在は、販売促進用のアメを中心に、弟の勝夫さん、2代目の政晴さんと一緒に家族でドロップづくりを精を出す。できたてのアメをひとつもらって口に入れると、温かくてやわらかい。口の中で固まってくという不思議な体験をした。嘔むと、サクサク口ざわりよかった。あたたかいアメを食べたのは初めてだった。

甘



●菊水商会 千住3153
388112493
明治37年創業の菊水ラムネは、現在4代目である。初代が熊谷の出身であり、秩父に菊水寺という寺があるので、ここから名前を取ったのではないかと3代目小池欣三郎氏の妻美枝さんが言う。創業当時は旧道からお宮さんまで田んぼだったとおばあさんが言っていた。田んぼの中に工場が出現し、周りを驚かせたのだろう。美枝さんが嫁に来た戦後、この工場では30人以上が働き、菊水ブランドのラムネ、炭酸水、ソーダ水、シロップを作ったそう。毎日魚屋さんが経木に書いた品書きを持って御用聞きに来たし、八百屋さんも届けてくれた。何人もの「若い衆」が住み込みでおり、まかないだけでも大変だった。夜もそれぞれ夜学に通ったり、旧道沿いに映画を観に行ったりして活気にあふれていたという。当時は「香料のいい匂いでいっぱいだった」そうだが、現在は卸売中心。びんを運び降ろした横丁沿いの広い空き地は、今も昔も子どもたちの遊び場。

千住の路地を歩くと、ときどきあま〜い香りが漂う。3丁目の路地でドロップ工場と飴工場、ラムネ工場を見つけた。



▶鍋で6000個くらい、17〜8キロのアメが作れる。鍋単位なら、注文もできる



本氷川神社のまん前にある青柳豆腐店



▲戦後間もない頃の菊水ラムネ
昭和60年代、ラムネを詰める様子▶



● お好み焼きひらの

千住3-73

緑の多い路地に面したお好み焼き「ひらの」は小さな看板が出ているものの、一見すると静かな仕舞屋である。

おかみさんの平野須美子さんが、職人でいらしたお父さんが子供の頃から住んでいたこの場所に、小料理屋として店を構えたのは終戦後昭和23年頃。その後お好み焼き屋に生まれ変わって約40年になる。「でんす

け」「石松」とい

う名前の お好み焼きが目を引く。芝居や演芸がお好きだった平

野さんのお母さんがつけた名だ。でんすけの具は牛ひき肉と卵。石松の方はえびと卵。

具に使われる肉は全て牛挽肉である。青のりや



かつお節、濃厚なお好み焼きソースもマヨネーズもない。味付けは醤油かウスターソース。

驚いた。お好み焼きってもしかすると本来こういう素朴なものだったのかもしれない。ねぎ焼きは緑が目にも鮮やかで、材料の甘みが生き、美味い！ また、ここでは「もんじゃ」ではなく「ぼったー」。

値段も一枚350円からと格安で、これが路地価格かとじんわりうれしい。時間がさかのぼるようである。店の中にいると路地から足音や話し声の聞こえる「ひらの」は、ここを訪れる我々に、路地沿いに住まう感覚を一時的にはあるが、疑似体験させてくれる場所である。(残念ながら「ひらの」は取材後閉店されました)

● 福水旅館 千住3-52

38814001

現ご主人のお母さんが、戦災で浅草から焼け出されて千住へ来て、最初は料理屋から始めたという。「母はもともと三味線なんかも弾くような粋筋の人で、水商売がやりたかったみたいです」ご主人によると、千住の見番横丁は以前かなり華やかだったらしく「母が始めた頃は、近辺に旅館も40軒くらいあったらしい」。同伴での利用も多かった旅館は、表通りよりはちよつと入った場所に、ということに。



本氷川神社参道の福水旅館の前で、現在のご主人にお話を聞いた

千住の路地・横丁に多いものといえば、旅館・銭湯。一時より減ってはいるものの、今も3丁目だけでも旅館3軒、銭湯1軒を発見。ほつとさせる憩空間が、路地・横丁に多いのはなぜ？



● 千代の湯 千住3-43

388115709

● 梅の湯 千住5-10

388813356

昔は旧日光街道沿いの路地を入ったところに位置する「路地銭湯」はたくさんあったが、現在残っているの

路地をよみこくキーワード 憩

は、千住3丁目の千代の湯と千住5丁目の梅の湯の2つだけ。どちらも細い路地をタオル片手に銭湯へ行くお客さんの姿がとて絵になる銭湯だ。「路地に銭湯ねえ。やっぱり銭湯は場所とるからね

だからじゃないのかなあ。」とは梅の湯のご主人。銭湯がたたくさん作られていた当時、旧道沿いには店舗が立ち並んでいたが、その裏には広い田畑や空地がひろがついていたという。したがって広い敷地を必要とする銭湯は、奥にひっこまざるを得なくなつたのだらう。千代の湯は、昭和39年から現在のご主人の経営だが、もともとは大塚千代さんという方がやっていた

からその名がついたという。路地入口にある優文堂書店の横壁の立派な銅板やお稲荷さんも、路地銭湯の風情を高める魅力のひとつ。



ホテル千寿は、戦前駅の方を正面玄関にして商売をしていたが、戦後ホテルに商売がえしたので、玄関を路地側に付け替えたという。緑多い路地の石畳を数歩歩くと、玄関に至る。



横丁今昔物語

「別に特別な名前 wasn't なかったよ。『お宮の通り』。昔からそう言ってたね」とは青柳豆腐店のご主人。路地は私道だが、横丁は公道。この横丁は本水川神社の参道として時の流れを見つめてきた。「私がお嫁に来る前は、旧道からこっちはずーっと田んぼだったそうよ」とはラムネの菊水商会のおかみさん。家は徐々に増え、人ひとりが通れるほどの路地が家々を取り巻き、迷路のようになっていったそうだが、家が建てかえられる度に細い路地はどんどん減っていった。

本水川神社のお宮は昔、階段を数段のぼったところにあったそうだ。よく縁の下にもぐって子供たちが遊んでいた。男の子はメンコやベーゴマ、チャンバラ。女の子はかくれんぼに石けり。日が暮れるまで子供の歓声が絶えることはなかった。そんな子供たち相手に、どんな焼きや紙芝居などの屋台も出ていたという。「悪戯をして宮司さんにほう

きを持って追いかけられたこともあるよ」と岩田商店のご主人は子供の頃の思い出を語る。お祭りの日には、横丁はまた一段と賑やかになる。境内に屋台が立ち並んだり、祭りの後の直会も盛大に行われた。

本水川神社の向かい、また旧

街道をはさんだ中川園の裏にはお稲荷さんがあった。2月の初午の日、太鼓がドンドン鳴ると子供達はお菓子をもらいにかけて出で行った。いつも子どもでいっぱいだったお宮の通りとそのまわりの路地は、『道』でありながら、当時子供達のワンダーランドだった。

2軒長屋、駄菓子屋、どじょう屋、花屋、竹屋、寿司屋：時代とともに横丁に面する顔は移り変わってきた。でも「この家には想い出がいっぱい詰まっているし、何よりまだ現役で頑張ってる。だから大事に使っていきたいの」と語る照井さんの暮らす木造家屋や、町雑誌千住の編集人が住む元助産婦さんの家など、往時を偲ばせる建物も残り、子どもの数は減ったけれど、白墨の落書きが今も見られる懐かし横丁である。



▲千住本水川神社の参道。昭和30年代の祭の日

路地考現学



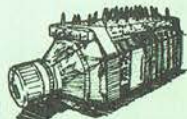
石畳の路地

おおよそ45×75センチ位の白い御影石が踏み石として使われている路地。聞くと、都電の敷石だったのを転用しているとか。ほんわかあったか気分が味わえる。



蔵あり口模型

宿場町通りから路地への入り口にミニチュア蔵模型発見。お茶の中川園ご主人手作りの誘導看板は、うれしい気使い、小さなアート。全路地の入り口に、こんな路地案内があったらステキだなあ…。



ねこ槍

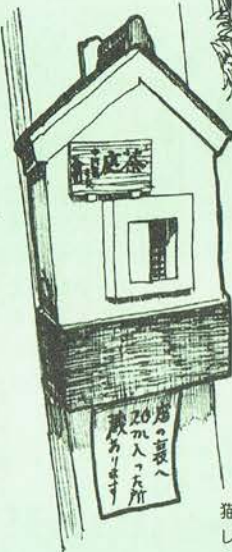
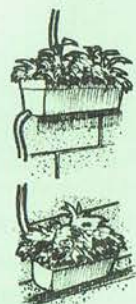
猫よけの仕組みは数々あれど、極めつけがコレ。ペットボトルの表面に隙間なく敷き詰められた釘。かなり強烈な存在感を漂わす。路地には動物溺愛派と撃退派がおられる模様。

ワシのちべたじゃ

やっぱり最後はねこで締めくくり。3丁目に、コンクリートの地面に足跡がしっかり残っている路地あり。探し出せたら幸せになれるかも。場所はヒ・ミ・ツ。



全自動水やり器
家の3階のベランダ、一番上から下じょうろから水を落とす。3段階で水が落ちていく。3段階で高さを生かした路地の知恵。ただし可動目撃談は未だなし



路地ガーデニング

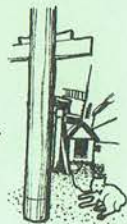
見どころ其の壱、植物暴走。アロエは特に多いが、自然にワイルドに野性化した所がまた絵になっている！

其の貳、植木鉢。多数派は発砲スチロール。類似品としては漬物樽や一斗缶など。



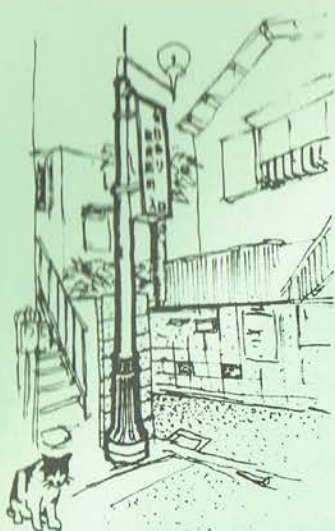
いなり犬

あれれ？稲荷に狐が王道なれど、こんな稲荷は犬が守る。路地にあったり、屋敷の中など千住のあちらこちらにある稲荷。社の正面は多くが南を向いているとか。3丁目路地の稲荷はひとまず5カ所発見。



路地のおばあちゃん

自動車が通れない道の幅。乳母車を押すおかあさんや、大切に植木の手入れをしているおばあちゃん。みんなゆったりくつろいでいる。路地だからこそ許される至福の時間の過ごし方。



味な電柱

毎日通り商店街の足元付近をよーく観察してみても。ちょっと凝ったデザインの柱がそこに。昔の電柱がいまだ現役で頑張ってます。

旧道から入る入口は狭いのに、奥に進むにつれ広がる不思議空間。ステキな古い家、古い自転車、古いおもちゃ、防火用水桶、ぽっかりあいた空き地…静かで懐かしい昔空間なのに、歯科、設計事務所、解体屋さん、和裁教室、書道教室…と続く現役の面白い路地。



通称お宮の通り。(詳しくは8ページ)

千住3丁目



昔用水路が流れていた。旧道から路地を抜け、用水路を越えると田畑だったそう。

サンロード宿場の通り

長くて細くて、方向感覚がなくなりそうな路地。豊富な緑、砂利、かっこいい町家…わき道が多くて、どこへ出るかお楽しみ。(99秋取材時)

旧道から入って突き当たる路地銭湯。行き止まりかと思えばあちこちへ抜けられる街割りは、どこからでも路地を抜けて、最短距離で銭湯に行ける『なるほど』路地群。



通称レンガ横丁。旧道からレンガ敷きの小道をちよっと入ると、緑いっぱいの空間に。自転車や子供が絵になる。



二階建て木造長屋が丁寧に手入れされて使われていたり、雰囲気のある路地。漫才師の春乃チックさん(故人)が住んでいたのもここ。



見番横丁。戦前、見番(芸者さんの取次ぎ所)があり、置屋、料理屋、髪結いが揃い、車屋、医者、清元のお師匠さんらも住む華やかな街だった。駅前通りができるまではここが駅前通りで、今の三菱信託銀行のところには火の見やぐらがあったそう。三味線の稽古の音色が聞こえる艶っぽい町並みを覚えておられる方もいらっしゃるのでは? 今はその面影もないが、地元民に評判の中華そば店や座って街を眺めながら食べられるたこ焼き屋などあり、人通りは多い。



地図中の黒文字表示は2~7ページで紹介した所です。



ネコの眼路地マップ

毎日通り飲食店街。戦後マーケットだった一角が小さな飲屋街になった。



昔用水路が流れていた

駅側から入っていくと、緑がふれ、つきあたりに中川園の蔵が見える路地らしきNO.1の路地。蔵の前には、以前共同井戸があった跡が残り、昔の路地生活が想像できる。

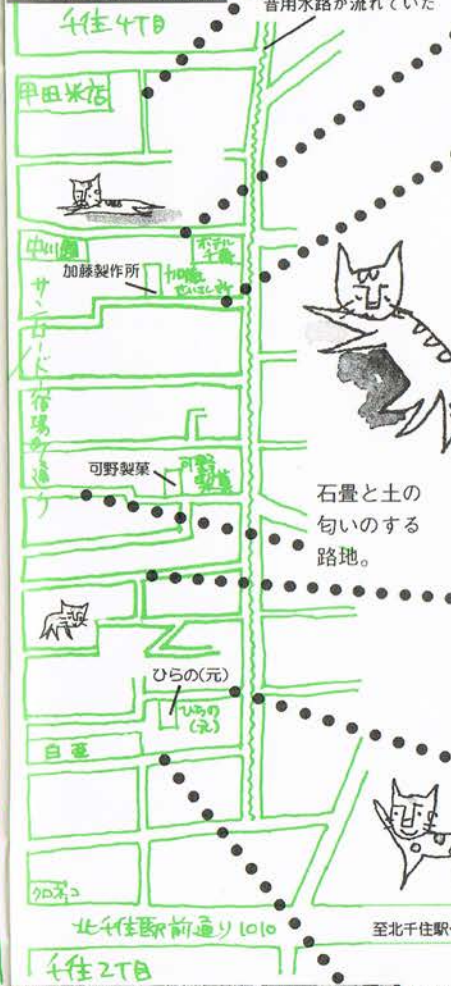
鍛冶屋に仕立て屋、歯医者さん。昔は細い道の両側に、職人たちが住む長屋路地だったとか。今でも頑張る加藤製作所ほか、ミシンの音が聞こえる路地



路地ガーデニングのステキな路地。途中の空地は残念ながら自転車置き場になっているが、ここで子どもたちが遊べばサイコーだなあ。

石畳と土の匂いのする路地。

「昔から全然変わらないよ」路地の住人がそういう、懐かし路地。しもたやのような素敵なお好み焼き店が最近閉店されたのが残念だが、人も緑も家々も、ほっとさせてくれるやさしい空間。



至北千住駅

格安子供服・衣料の白亜来店客で賑わう、まさに白亜通り。休日は、買物中のママを待つパパ軍団の待ち合い通りに。



▼山開きには、現在も行者姿の参拝者が訪れる。(大川町氷川神社)



▲昭和30年代の千住十三夜同行



■富士塚に祀られているのは 美しい女神■

富士塚には、富士山から浅間大神、木花開耶姫が分祀され、まつられている。当時富士塚は、富士山の見える場所に作られることが多かったそうだ。

■富士講ってなに？■

「講」とは、同じ信仰を持つ人たちの集まり。富士講のメンバーが集まって、一緒に富士山に登ったり、各地の富士塚を巡ったりした。享保18年(1733)、富士山での断食行で入滅した身縁の弟子高田藤四郎が1736年に最初の講を起こし、1779年、新宿区早稲田に最初の富士塚「高田富士」を作った。高田富士はもうないが、藤四郎の作った講は丸藤講の名で現在も信仰を続け、山開きの日には行者姿で千住の大川町氷川神社へも出向いてこられるそうだ。丸藤講から枝分かれして、1795年ごろ、丸藤千住十三夜同行が生まれた。

■江戸時代に90回も富士登山 した男が千住にいた■

千住丸参講の石田日照氏は、寛政12年(1800)～安政元年(1854)の54年の間になんと90回登山したと記録がある。つまり1年におおよそ2回ということ。鉄道ができてからは100回を越す人も現れるが、江戸時代においては、大変な苦勞だし非常に珍しい。よほど信心深い人だったのだろう。

今も盛大に祀り遊ぶ

東京都区内には、かつて約60の富士塚があったという。1995年のある調査から、現存する富士塚の建造物に残された年代を見ると(年代不明の塚もいくつかあるが)、千住大川町の富士塚は23区内で4番目に古い(1810年建造)。

最初に作られたのは、今は西新井橋近くの荒川河川敷となってしまった場所にあった浅間神社のなか。このあたりは見渡す限り、田んぼだったそう。そこにひととき目立つ、うっそうとした杉木立。このなかに高さ6メートルにも及ぶ立派な富士塚が作られた。江戸時代には、1、2を競う規模で、祭礼

ともなると近在の農家の人が参道に戸板を並べ、野菜やお餅、かごや竹細工などを売り、大変賑やかだったという。

荒川をつくったときに現在の氷川神社の境内に移され、その後もう一度場所を動かした。2度にわたる移転で徐々に小さくなったが、今もおごそかで神秘的な姿を見せてくれる。山開きの宵宮、当日にわたる演芸大会と夜店は、形は違えど当時の思い起こさせる賑やかさ。東京ではもう、このような賑やかな祭礼はほとんど見られず貴重な伝承行事といえよう。



富士塚の山開き

ろっこんしょうじょう
「六根清浄…」

6月30日～7月1日

古来から続く日本人の富士山信仰は、江戸時代になってますます盛り上がったが、出かけて行くにはお金もかかれれば時間もかかる。そこで、直接お参りに行けない人たちのために、各地に、富士山から運んだ溶岩や土を埋め込んで、ミニチュア富士、つまり富士塚をつくり始めた！千住にはなんと、4つもある！今年の山開きには、登ってみませんか？

◀子供のファッションはなつかしいが、富士塚は今もほとんど変わらない。(大川町氷川神社)

千住の富士塚

神社名	住 所	富士塚名	講 名	行事など
大川町氷川神社	千住大川町12-3	川田富士	丸藤千住十三夜同行	6月30日夕方～宵宮縁日、7月1日14時半～御飯屋で川田囃子の音色とともに山開き。縁日にも有、両日とも19時～奉納演芸大会
千住神社	千住宮元町24-1	宮元富士	丸参千住同行 (現在なし)	通常は橋の中だが7月1日朝山開き後、夕方まで登山可
柳原神社	柳原2-38-1	柳原富士	柳原富士講	7月1日山開き、箕輪囃子奉納有 普段でも社務所にお願ひすれば登山可
素盞雄神社	荒川区南千住6-60-1	南千住富士	丸瀧講 (現在なし)	現在、山開きはなく登山不可だが折願のばりにとりまかれ、雰囲気たっぷり

数ある東京の花火の中からオススメ

千住の花火

なぜ人は千住の花火に惹かれるのか。夏ともなれば、東京都内だけでも幾多の花火大会が繰り広げられる。しかし、「日本の花火がよく似合う」ということにおいて、千住はちよつと指折りだ。

たとえば、駅から河原へのみちすじの商店街。もともと甘いものやさんや呉服屋さんが多く、露店に混じって、お店の前にテーブルを出して商いをしているところも多い。

そんな商店街を目移りしながら歩き、河原に着く頃には、すっかり江戸っ子気分。河原ではキャンディーやさんが独特の節回しでお客を呼び、持参のお弁当を広げる人もある。ここでは、警備員のもののしや、場所とりのため

に我を忘れたお客は目立たない。

千住の花火は、打ち上げ場所と観客席が近いので、上から降ってくるような迫力と、おなかに響く轟音が存分に味わえる。都内では唯一という300メートルのナイアガラも、この広くまっすぐな河川敷ならではの。

そして、花火が終わっても、その余韻を楽しむ人たちが、千住の町は遅くまでざわめいている。銭湯に立ち寄るもよし、まだまだ営業中の露店で小腹を満たすもよし、赤ちやうちんをハシゴして、夜の千住を徘徊するもよし。

気分ごと楽しめる千住の花火は、日本の夏のノスタルジーだ。

「とっておきの陣地の確保」

おすすめ1・屋形船で見る

おなじみ「あだちの街のポイントカード」のポイントを貯めると、屋形船から花火を見られる。花火の日の屋形船は、昨年は5000ポイントでGETできた。先着順なのでお早めに! (問) 足立区商店街振興組合連合会・カード事業部 03-3881-9180

千住の花火の基礎知識

歴史は古く、初めて千住で花火があげられたのは、明治時代に千住大橋の落成を祝ったもの。その後、大正13年に千住新橋開通記念として行われたのが「千住の花火」の始まり。戦前の千住の花火は、両国と並んで人々の注目の的だったようだ。その後、戦争や経済状況の変化で中断・復活を繰り返したが、昭和54年に「足立の花火」として復活を遂げた。毎年7月の最終木曜、荒川河川敷にて行われ、観客動員数は53万人余り、1万発の花火が打ち上げられる。(今年は沖縄サミットの関係で8月24日開催予定)

(問) 足立区役所 03-3880-5111

おすすめ2・観光協会の指定席で見る

足立区観光協会の会員になると様々な催しに会員価格で参加できるほか、花火のとき千住側の本部近くの特等席の券が2枚送られてくる。会員になるには、直接区役所の観光協会に行き会費2000円を支払うか、電話で申し込み後、郵便局でお金を振り込む。(問) 足立区観光協会 03-3880-5111

おすすめ3・向こう岸で見る

荒川南側に比べて、北側はぎざぎざに行っても空きがある。風向きや、仕掛花火の見え方など少々難ありだが、ゆったり見られる。

まっすぐ長く続く河川敷ならではの仕掛花火が見もの

日頃は遊ぶのが仕事の商店街の子供たちががんばり時

土手に寝ころんで見ると、大迫力

駅から土手に向かう商店街は、活気にあふれる

赤門寺のえんま聞き

通称「赤門寺」の名で親しまれている千住2丁目の勝専寺。創設は今から740年前の鎌倉時代。江戸時代には將軍の御休所だったという歴史のあるお寺だ。千住っ子なら、ここのおえんま様の縁日に足を運んだ人も多いはず。山門左にあるお堂の奥に、目を見開き口を大きく開けた赤ら顔のえんま様が、200年以上も前から鎮座しておられるのだ。

このえんま堂は毎年小正月の1月15、16日と、地獄の釜のフタ



も開くといわれるお盆の7月15、16日の数入りの日に開かれ、お参りすれば日頃の非を赦してもらえるうえに、万病、特に喉の病気に効き目があるとのこと。この日はお寺の境内、大門通り、山門前の道筋に百数十件の露店が並び、おおいに賑わう。昔はおえんま様の日は、学校も午前中だけだったというから、千住っ子の思い入れがうかがわれる。

千住の縁日



昔は江戸百間魔といわれるほど多く見られた間魔さまだが、震災、戦災を経て数が減り、今では貴重な存在だが千住にはお二人もおられる。調べてみると東京の間魔は宿場町や岡場所に多い。「おそらくこれは、市域をシャバ、外を他界とみたてた、近世都市江戸のコスモロジーの名残なのだろう。」(アサヒグラフ88.8.19東京の間魔特集より) そもそも「えんま」

とは梵語(古代インドの言葉)で“静息”の意味とされ、地獄でさえ休息することから“数入り”の風習と結びついたようだ。江戸時代から戦前までは商家の奉公人は年2回、この数入りのときだけお店を休んで実家に帰ることができた。このため、昔のえんま詣では、鳥打ち帽に前掛け姿のでっぴが多く訪れたという。



東一丁目・東京研修センター共催

盆踊り大会

ごくふつうの盆踊りに見えて、ちょっと違うのが、ここ東一丁目の盆踊り大会。よく見れば、ほろ酔い加減の浴衣姿の外国人の面々。実は、町会と東京研修センターが一緒に開く盆ダンスパーティなのだ。海外の若者たちといっしょに日本の踊りを踊るというのもオツなもの。「古い町並みの中にこのセンターができたのが18年前。盆踊りはもう、15年以上になります。面倒見のいいおばあちゃんが出て、国へ帰ってから手紙を書いてくる研修生もいたりね」(東京研修センター渡辺課長)

海外からの研修生の浴衣の着付けは、町会婦人部の協力を得ているので、着こなしはなかなかのもの。町会の面々と、センターの職員が出すビールや焼き鳥の出店も安くて良心的。研修生たちのお国のエスニック料理の屋台も検討中とか。



日時 8月の第1土日18時~21時半
場所 東京研修センター中庭(千住東1-30-1)
問合せ 財海外技術者研修協会 東京研修センター-3888-8211

千住では、たいていの町会や自治会、商店街で、夏休みを中心に、縁日や盆踊りを催している。フロが出店する大規模なものから、有志がボランティアで手作りする安くて心温まるものまで、さまざま。綱引きやそば食い大会までやっちゃう町会もあってアイデアもいろいろ。ハシゴしても楽しいよ。



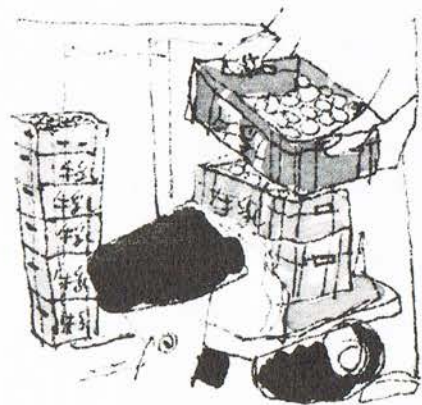
イベント名	日時	場所	問合せ先
旭町縁日	毎月1、15、26日 (夕方9時)	千住旭町商店街 (北千住駅東口より)	38822505 (大黒屋)
おえんまさまの縁日 ※19P	1月15、16日と、7月15、16日	赤門寺(勝専寺)境内、大門通り	38812358 (勝専寺)
柳原さくらまつり ※12P	桜が満開の時期の週末	柳原南児童遊園と柳原桜並木	38810903 (柳原商店街振興組合)
富士塚まつり ※14P	6月30日～7月1日	大川町氷川神社	38814654 (金子)
千住桜木盆踊り	夏休みに入る頃の土日	尾竹橋公園	38812400 (尾後家)
千住夏まつり	7月中頃の日曜	千住元町団地12号棟ビロイ等	38822765 (全住居児童館・老人館)
第5地区盆踊り	7月最終の土日	千住(大川町)公園	38815758 (鈴木)
旭町町会盆踊り	7月最終の土日	旭町商店街通り	38880115 (岩城)
宮元町中通り盆踊り大会	7月後半～8月初旬の週末2日間	中通り	38883801 (斉藤青果店)
緑町七ヶ緑日 & 盆踊り ※13P	8月第一土日あたり	緑町商店街 ゆうやけ通り	38819705 (バレット)
東町縁日	8月第一日曜と12月第一日曜	東町商店街	38814347 (ヘアサロンヒラ)
東1丁目東京研修センター盆踊り大会 ※18P	8月第一土日	東京研修センター 中庭	38888211 (東京研修センター)
千住仲町盆踊り & こども縁日	8月20日前後の金土 右の翌日の日曜	仲町公園 仲町氷川神社	38812355 (長谷川金物店)
緑町よいみや縁日	9月14日夜	緑町商店街 ゆうやけ通り	38819705 (バレット)
千住仲町演芸大会	9月14日夜	仲町氷川神社	38812442 (橋本)
日ノ出町盆踊り	かげ祭の年の9月半ばの週末2日間	旭町(太郎山)公園	38885872 (鈴木)
柳原稲荷神社祭礼縁日	9月15日前後	柳原稲荷神社	38811589 (タカダガラス)
中居町盆踊り大会	9月半ば頃	中居町公園	38886451 (藤崎)
龍田町・千住神社祭礼縁日	9月15日前後の週末	龍田町公園	38816722 (相場)
こども夏休み盆踊り大会	8月第三土日夕方	元町公園	38886693 (今野)
ひかわ縁日	8月最終日曜正午より	千住3丁目 氷川神社	38812230 (3丁目親睦会・中田)
大門商店街縁日	8月最終日曜	千住大門商店街	38811725 (鮎忠)
千住本町住区まつり	10月半ば日曜10:00～15:00頃	千住本町住区センター	38706221 (千住本町住区センター)
千住あずま住区まつり	9～10月の土または日曜10:00～15:00頃	千住あずま住区センター	38821218 (あずま住区センター)
千住河原町住区まつり	11月中旬土日10:00～15:00頃 (土曜の前夜祭は夕方)	千住河原町住区センター	38707220 (千住河原町住区センター)

※いずれも内容、日程等が変更することがありますので、ご注意ください。その他もあります。お近くの町会・自治会・商店街などにお問合せください。

千住に息づく、日本の暮らしの知恵をご紹介します

① 千住の暮らし

人と環境にやさしい牛乳配達のはなし



と意外な感じもしますが、調べてみると、全国的にも予想を上回る伸びがあることに驚かされます。ちなみに明治乳業では宅配の牛乳は、93年までは減少を続けてきましたが、94年には前年比+4%、95年に+7%、96年に+10%、97年+6%、98年+3%。理由は何なのでしょう。

なぜ牛乳配達が増えているのか

実は私自身も千住に越して来て、久しぶりに宅配牛乳を始めてみて気付いたのですが、単純に「びん牛乳は美味しい」のです。びんの口当たりもとてもいい。あるとき牛乳販売店の方に聞いてみると「紙パックは冷蔵庫の匂いを吸収しやすい。その点でも、びん牛乳は美味しいんですよ」とのこと。味にこだわる人が増え、びん牛乳が見直されてきたのかもしれない。

それから「びん」がリサイクルされているということが、環境を大切にしたいという人々の心をとらえ始めたということもあるでしょう。牛乳パックを含む紙パックのリサイクルも進んできてはいますが、リサイクル率はまだ約23%（アルミ付を除く。平成8年、全国牛乳容器環境協議会調べ）。その点、牛乳びんだけ見ればリサイクル率は98%程度。

飲料全体を考えると、日本のびん飲料が



昭和30年代の中村乳業店頭。車、バイク、自転車を総動員して配達していた

ガチャガチャガチャ…。朝、牛乳びんのふれ合う音が、まだ夢うつつの耳に聞こえてきます。朝の音、季節の匂い…。そんなものが日本の日常から消えゆくこのごろ、千住には今もさまざまな音や匂いが残っています。牛乳配達もそのひとつ。千住に越してきた人は「今も残ってるの？」と驚いたり喜んだり。千住は昔から変らず牛乳配達之恩恵を受けることのできる貴重な地域です。この牛乳配達に今、新しい風が吹きつつあることをご存知でしょうか。「このところ、月10本ともいえる勢いで配達注文が増えるんですよ」千住で約45年配達を続ける中村乳業のご主人がおっしゃいます。スーパーで買うより割高という点から考え

著しく減少していることは明らかです。

97年のデータでは、日本の飲用容器生産量の90%が使い捨て容器となり、リユース（再利用）容器はたった10%。ドイツでは、97年現在、飲料全体の35%がリユースびんだそうです（参考：『月刊廃棄物』97年7月「ハンデルスブラット」98・12・12・13）

千住と牛乳の深い関係

そういえば先日ドイツを訪れたときには、スーパーに並ぶジュースまで、その多くがびんで



した。子どもたちも、使い捨て容器に入っただけのゴミを増やすから買わない、という風に育てられていると聞きました。他のヨーロッパ先進諸国を見ても、環境を考えたリユース容器へ、というのが流れのようです。ところが日本では不思議なことに、今も紙パック化、ペットボトル化が進んでいるように見えます。そのなかで稀少にも



店構えが懐かしい看板建築の森永ラテ倶楽部中居町

残ってきた牛乳配達のはなしが今、帰ってきつつあるのです。

「社会の高齢化と女性の社会進出が、牛乳に限らず宅配への需要を後押ししています。牛乳に関していえば、老人の1人、2人暮らしの家に毎日運んで行けば、安否確認もできますし」（東京都牛乳商業組合・岡田事務局長）

老人と働く女性…それなら千住が昔から誇りにしてきたものではないか…。だからこそ牛乳配達が一時的衰退したときにも、千住の牛乳配達は元気を失わなかったのかもしれない。日本の暮らしを大切に育てる千住の知恵をまたひとつ見つ

けました。ところで、実は千住と牛乳の関わりはそれだけではありません。今では考えも及びませんが、明治の頃から北千住駅近くに牧場があったのです。ここにはさまざまな物語がありますから、また場を変えて、誌面でご紹介してまいります。

（取材・文／F）

千住で牛乳を配達してもらえる牛乳店

店名	住所・TEL	配達できるエリア	取扱メーカー
上石牛乳店	柳原2-37-6 3888-1971	柳原、日ノ出町、千住曙町・東町・旭町	明治
小泉牛乳店	千住中居町29-1 3882-2073	千住全域	明治
高田牛乳店	千住緑町2-15-17 3881-2953	千住全域	雪印
高橋牛乳店	千住河原町1-9 3881-7026	千住全域、荒川区、台東区	明治
中村乳業(株)	千住大川町21-11 3888-4626	北千住西口方面	名糖
服部牛乳店	千住寿町31-7 3881-3847	千住全域	明治 東毛酪農
森永ラテ倶楽部	千住中居町9-9 3881-6328	千住全域、中央本町、青井	森永

左官の名工

伊豆の長八—1

(1815-1889)



松崎町に作られた入江長八の像

ており、多くの
人々の懸案
となっていた。
一昨年、前述
“進める会”
が、長八の故
郷松崎町の伊

「初めて見たとき、どきっとしました。目が生きてるんですね。」多くの参拝者にそう言わしめる、橋戸稲荷神社の土蔵造りの本殿、扉内側に描かれたこて絵の親子ぎつね。本殿前に膝まづくと、ちょうど目が合う不思議なつくり。2匹の子ぎつねを見つめる母ぎつねの眼差しは哀しいほどにやさしく、雄ぎつねの目は凛と輝く。「見るこちら側の気持ちによって、表情が違って見えるんですよ。」千住大橋周辺の景観まちづくりを進める会“の八木茂さんご夫妻が語る。伊豆の長八の作品の中ではわずかに力所になってしまった、建造物に残された長八の仕事である。貴重な作品ながら長い年月を経てもろくなつてき



江戸末期に作られた蔵造りの橋戸稲荷神社本殿。観音扉の内側に長八のこて絵が残る。文久3(1863)年、長八49才のときの作品



長八が学び育った浄感寺は長八記念館となっており、長八の作品が多く残る。この欄間の飛天は当時の色彩がそのまま残り、自然光により、美しく不思議な陰影をかもし出す

長八の思いが詰まった きつねを修復する

豆長八美術館を通して、現代の左官の名工といわれる佐藤勉さんを紹介してもらい、念願の修復を成し遂げた。

壁塗りを仕事とする職人を「左官」というが、左官職人の名工と呼ばれた伊豆の長八が、その壁塗りの道具「こて」を使って、漆喰の壁面に立体的絵を描きはじめた。これを「こて絵」と呼ぶ。長八は江戸、伊豆を歩き来しながら、各地に作品を残した。

千住の親子ぎつねの修復にあたった佐藤勉さんは、左官職として黄綬褒章を受けたほどの腕の持ち主で、奇遇にも長八の直弟子だった佐藤菊太郎の4代目その佐藤さん、親子ぎつねを目の当りにして、2日間は手を触れられずじっと見ていたという弟子の菊地さんと神社敷地内の会館に泊まり込み、夜には「進める会」の面々と酒を酌み交わ

して長八談義にのめり込み、約1週間で修復を完了した。「進める会」の八木さんは「江戸時代、水辺の町千住は、物資が集まる裕福な蔵の町だった。漆喰の作家長八はきつねとたびたび千住に足を運んだのではないかと。また長八には終生子供はいなかったとされているが「親子ぎつね」の表情を見ていると、女性が多かった宿場町千住で恋をし、ひよつとしたら千住に子もいたのでは?と思わせられる」とユニークな持論を展開する。

酒の勢いで「このきつねは松崎に連れて帰るぞ」と言う佐藤さんの言葉を受けて、佐藤さんたちが帰って間もなく、「進める会」のメンバーは「きつねを連れ戻しに」松崎を訪れたという。修復後に作ったレプリカをお土産に。親子ぎつねに心打たれた男たちが集まって、長八の思いを後世へつないだ熱い1週間だった。現在、修復を終えた親子ぎつねは扉の内側にいる。保

存のため本物が公開されるのは、5月15日、9月15日と節分の日だけ。レプリカが、同社で常時公開されている。
実は千住には長八の作品が橋戸稲荷以外にも数点残っており、千住と松崎の深い縁が、100年余のときを経てまたつながったように感じられた。



橋戸稲荷神社で長八のこて絵の扉を修復する佐藤勉さん

「町雑誌千住」創刊以来、読者の方々からたくさんのお便りをいただきました。これからも貴重なご意見・感想、おもしろい情報などお待ちしております。みなさまと一緒に楽しい紙面をつくっていけるようがんばります！



千住にひとこと

千住から福井県に転居いたしました。越前の国から私のふるさとの千住をつくる方々を応援いたします。地域に生きる職人には「技」だけでなく、他の顔もあります。「縁の下力持ち」とでも言いましょうか、見えないところで地域をつないでいきます。私の弟は三代目の千住の板金屋ですが、町会の青年部のまとめ役で、廃品回収、集会、祭り、夜回り何でもこなします。千住の点と点をつなぐことが、彼は好きようです。しかし、高層マンションが増える中で、今後の地域の様子に不安も感じているとのことでした。

もと千住5丁目在住 T.Hさん

堀切に住んでいた頃、堀切菖蒲園から千住大橋で京成電車を降りて都電に乗り（たしか21系統）北千住まで行き、甥が骨折したのでよく名倉医院に連れて行き、千住は想い出の街です。

W.Hさん



*みなさんからの「千住にひとこと」をお待ちしております。
*お名前掲載可・不可もお知らせください。

来年こそ千住に行くぞー！今年は蔵めぐりもしたかったのに、残念。蔵がたくさんあることは知っていましたが、じっくり見たことがなかったんです。でも、この蔵マップを持っていれば迷惑をかけるようにながめられそうです。必ず、蔵めぐりしますから。このマップ無駄にはしませんから。…このマップ、知っている場所がいっぱいあってうれしいですね。つくづく感動！このすてきな企画をありがとうございます。

もと千住橋戸町在住 M.Nさん

*蔵マップは千住・町・元氣・探検隊が98-99年秋のイベントで作成したものです。

大変心行き届く地元らしさあふれる良いものに出来上がって、感心して読ませていただきました。

千住宮元町 C.Tさん

おいしいお惣菜屋さん。私のような独り者にも主婦にも優しいまちだな。リサイクルショップ。千住にはブランド品から古着、家電、家具、古本屋とけっこう多くないですか？

千住橋戸町 N.Tさん

小生千住元町の生まれ、第七小学校へはS10入学で、16年卒業です。小山源喜校長先生でした。当時学校の周囲は堀があり、木橋をわたって入校しました。

N.Kさん

以前日ノ出町に住んでいましたが、昨年5月に橋戸町へ引っ越しました。千住は本当に住みやすくて、おもしろい町です。住めば住むほど好きになる町だと思います。

K.Hさん

小2の夏、北千住を離れ北小金（松戸市）へ。それまで千寿小のまん前に住んでいました。過日、東京新聞で「蔵の町」の記事を見て、ぶらりでかけました。ミリオン通りの商店街あたりみかえすたびに、涙でそうです。カトリア幼稚園はいつなくなっただけでしょう。

江戸川区船堀

Y.Tさん

左官の手技があふれる町

松崎



99年5月、私たちも長八の故郷伊豆の松崎を訪れてみた。同地で長八に造詣の深い左官職人の関賢助さん、鈴木誠二さん、長八美術館の鈴木誠さん、長八記念館の本多弘隆さんにご案内いただき、あらためて長八の素晴らしさに触れることができた。

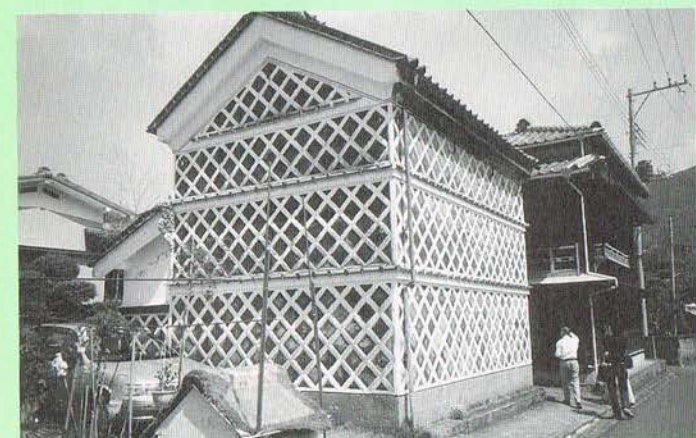


明治13年築の国指定重要文化財岩崎学校には長八の作品がたくさん残る。二階の屋根下の龍の彫刻もそう。ゆったりと懐かしいときが流れている

また、千住へ修復においでいただいた佐藤勉さんには、お住まいの山口集落を中心に、ご本人の手によるこて絵や、代々修復しながら受け継いで来られたな

く感じさせられた旅だった。貴重なお時間をさいてくださった松崎町の皆さまに、この場を借りてお礼申し上げます。ぜひとも長いおつきあいをお願いしたいと思います。

まご壁などをご案内いただき、職人の手技が息づく町の素晴らしさを教えていただいた。お話を聞くと、なまこ壁の蔵の修復が思ったほど高価ではないことにも驚かされた。千住には今も蔵が多いが、多くはトタンで覆われてしまっ



佐藤勉さんの手技がたくさん見られる、松崎町の山口集落の町並み



瓦屋根の後ろ側の「しどめ」部分には、左官職人の遊び心が隠されているのだそう

この連載では千住の20代を中心とする若者達を写真で追っていきます

千住 20sの 風景 ①

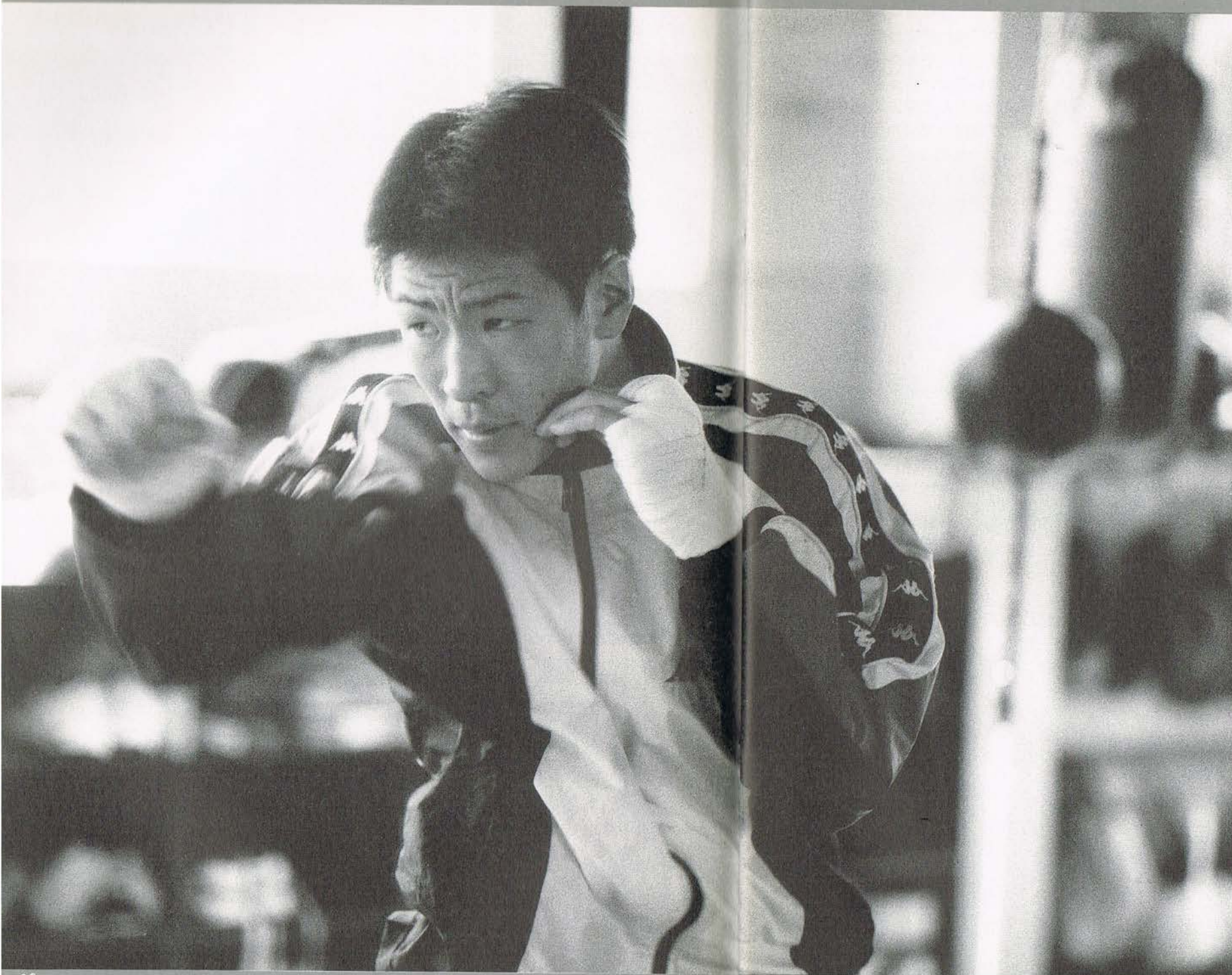
伊佐次 茂伸 (20)
野口ボクシングジム
(千住龍田町)

プロ10数名と、現日本ミニマム級チャンピオン鈴木誠、もと日本チャンピオン吉野弘幸を抱える野口ボクシングジムに、一昨年12月「ちょっと変わった子が入ってきた」と言う。見学時から「やたら横柄」だったが、始めてみるととにかく努力家で、毎朝、毎夕通ってくる。近年の選手に珍しく荒っぽいことと素直な点が、見込みを感じさせるらしい。

夜7時を過ぎると、若者達がジムに続々と集まって来る。激しい練習と、まさに読んで字のごとく飛び散る汗を見ると、熱気と快い緊張感に包まれてくる。その張り詰めた空気の中、大先輩たちから「お前、叩いてたんか。音、全然聞こえなかったぞ」「伊佐次は、パンチがなかったらただの突っ張りだからな」と軽口をたたかれ、はにかみながら伊佐次はサンドバックに向っていた。

取材後、昨年12月、伊佐次くんはプロテストに合格した。2000年4月3日、後楽園ホールでデビュー戦。

(写真； 舘又将文)





路上アート展
結
BYグループnora
10月1日～10日

千住の路地や、路地が「結」ぶ場所に作品を展示することで、新たな千住の魅力を発見してもらおうと、芸大や美大生を中心に18人が実施。10月10日の夜に千住三丁目千住本氷川神社で行われたパフォーマンスには境内いっぱいの来場があり、千住の新たな顔が見られたようでした。



暮れ六ツのまち幻燈会
BYスギナ組
10月9日
於喫茶蔵 & 千住本氷川神社



千住なぞなぞ蔵めぐり
10月1日～11月30日

千住・蔵の町展示会
10月1日～11日
於千住宿歴史ブチテラス



千住・町歩き「蔵のある風景を歩く」 10月5・7・10日



町歩きの参加者の声「テレビ等で蔵のある町として紹介され、今迄気を付けて見たが全く見当らず、今回ご案内され良く判りました。今後折に触れ訪ねる予定です。」(60代男性)。「どこかで歩いたことのあるような」デジャブを感じてしまいました。楽しかったです。」(40代男性)。「都心で失われた空間が良く残っている。子供の頃行った町に感じた人間の住み家と言った雰囲気の色濃く残っていて人の顔が感じられる。容れ物が変わっても中身は変わらぬと言うのも強く思う。」(60代男性)。「駅前で受けた印象と大きく違って。足立区のイメージがよくなった。人が多い。みなさん素敵です。」(20代女性)など千住を再認識したとの声が上がると、「新聞で読んだ時の印象。〈え！千住が蔵の町〉なんてと思う。実際に歩いて蔵が残る姿を想わせるが〈蔵の町〉として存在価値を世に問うにはもっと環境を含めた町全体の風景を考えなおす必要がある。」(無記名)。「できれば2000年以降もそのたたずまいをのこして欲しい。」(20代女性)などの提案を頂きました。

第二回「千住・蔵の町」を実施しました！

次の奉公先、魚河岸の魚屋では機敏な労働を要求され、まったく違った世界を体験した。「奉公」という言葉は今、あまりいい意味で使われない。しかしはるさんを見ていると、奉公という濃密な人間関係が、大人の知恵や威厳や人徳という栄養を、若木の根にしみこませる役割を担ったのではないかと思う。はるさん自身も、母親が早くに亡くなったように見えないとよく言われるが、それは奉公先で教わったことが多いせいだと言う。

19歳で結婚。夫は腕のよい27歳の靴職人であった。昭和7年、夫の父親を頼って上京。上野広小路から千住河原町を経て、戦後千住東町に住み現在に至る。子供は女5人男3人。総体に女の子はご主人似て気が強く、男の子は自分似て意気地なし、と笑う。大阪から来たとき、大阪弁が変だといじめられるのが男の子で、言い返すのは女の子だった。ご主人はきつい人だったんですかと聞くと、そうね、いい仕事したからね、わに皮の靴なんか作っていたんです

よ…何を語るにも自然体だった。「自分は小さいときから奉公に出たので、子供に對し、しつけを厳しくするということができなかった。でも自分では精一杯、一生懸命育ててきたつもりだけど、他人さまから見ればどうなんですか」と言っただけに、かまされた。端正な口調と羞じらい。それが少しも嫌みでなく、92年という時間の積み重ねによる秀麗さを感じさせる人だった。

(取材/KW、写真/Y)



▼娘さんご結婚のとき。
左端のはるさん



食事こそ、奥様と子供は茶の間、自分は台所と隔てられていたが、遊んでいるように楽しかったこの神戸の家を去るときが来る。奥様が若い学生と恋仲になり、船長夫妻が別れることになったのだ。

今、はるさんの話し言葉に関西なまりはない。常磐線にもほど近い千住東町の暮らしが、今は大好きというはるさん。「おばあちゃんいるの」と近所の人が次々訪れ、私たちの訪問時不在だったおばあちゃんをお隣さんが探してくれる、そんな町だ。初めて逢った日の笑顔の、なんともいえないかわいらしさと深みが目に焼き付いている。3年ほど前に自分で縫ったという裕の着物を、緩すぎず締めすぎもせず美しく着こなしておられ、家までお送りすると、自宅の少し手前で「ここで結構ですから」と丁寧にお辞儀をして去られる。あとに清々しさの残る方である。

松本はるさんは、明治41年12月、大阪梅田の近くで生まれた。父親はまわり床屋だった。道具を持って、北の新天地へ髪床をしに出かけていった。10人姉弟の長女で、母

が42歳で亡くなったとき、まだ11歳だった。そのころの庶民の子供の多くがそうであったように、口減らしと行儀見習いのため、はるさんも奉公に出る。2番目の奉公先、神戸にあった上海航路の船長の家で、約6年間、17歳になるまでつとめ、この奉公ははるさんのその後に大きな影響を与えることになる。

主人は半年に一度しか帰宅せず、普段は奥さんと8歳くらいの子の2人暮らしであった。はるさんは掃除や洗濯を済ませると、庭で子供のキャッチボールの相手をしたり、本を読んであげたりした。小学3年までしか出ていない自分が本好きになったのも、このときたくさん本を読んだからだとはるさんは言う。裁縫も奥様から教えてもらい、コロッケが何とおいしいものかと思つたのもこの家だった。

千住 明治の女伝 <8>

秀麗なひと

松本はるさん 92才

お願い！ その1 千住応援会員になって！

町雑誌千住は、千住・町・元気・探検隊が母体となって発行されていますが、現在皆様のご厚意とメンバーの出資とボランティアによって成り立っています。千住を愛する皆さんにも、ぜひ応援参加していただきたいのです。

- 購読応援会員 年会費3千円以上（各2冊 3回配本・送料、手数料、カンパ込み）
 - となり組応援会員 年会費6千円以上（各4冊 3回配本・送料、手数料、カンパ込み）
 - 心意気応援会員 年会費1万円以上（各5冊 3回配本・送料、手数料、カンパ込み）
 - 法人会員 年会費3万円以上（各10冊 3回配本・送料、手数料、カンパ込み）
- 心意気応援会員は紙面でお名前を、法人会員は社名他をご紹介します。
 - 2口以上のご協力、500円からのカンパも大歓迎

会員登録にいただける方はお近くの郵便局から下記までご入金ください。入金確認次第、会員登録させていただきます。名前、郵便番号、住所、電話番号のご記入を正確にお願いします。

【郵便振替口座】00140-4-103836（町雑誌千住編集室）

会員になってくださった皆様ありがとうございます

青柿浩一郎	足立区観光協会	あやめ寿司 本店	石原 捷恵	一 初	上木 恵子
植菌 徹	うなぎ千寿	奥乃丸伸之助	菊 や	鯨岡 亘	久保田生花店
倉元 恭一	栗田田鶴子	喫茶 蔵	小室 凱充	金 蔵 寺	佐藤 真澄
三 忠 本店	佐藤 昭司	塩島 莞爾	篠宮 勲	清水 正雄	白戸 徳一
鈴木 利次	須藤 尚俊	スペースエイド	千住ファーマシー	千住本米川神社	高見澤康夫
鳥 真	虎谷 恭子	中島 勝正	日本経済新聞 千住専売所	糖田都目子	寄席人形 ベガサス
星野 明	ポセイドン	堀内 延浩	柳原ぼん太	松田季美子	松本 龍子
新日本百年茶	宮田 昭明	宮田 一男	お好焼文字屋	酒のモトハラ	山田東城・京
吉田 忠司	よしだや	(敬称略)			

千住最中本舗
 要因家
 ハハニ ヨイシナ
 (代) (3882-4147)
 千住亀田町本店・五反野店
 竹の塚店・北千住ルミネ1階
 梅島駅前店・花畑店

コミック3万冊ゆったり80席

まんが喫茶

営業時間 平日 AM10:00~PM11:00
日曜日 AM10:00~PM10:00

TEL **03-3879-7532**

イト・ヨカ堂となり柏光社ビル4F


 中最高松かけ槍
 新入会中 美豆の箱
 千住 **なか井**
 電話 (3832)1001-1002
 北千住駅東口前

旭町歯科医院
ASAHI-CHO DENTAL CLINIC
TEL 3888-3917
北千住駅東口
足立区千住旭町4-10

カンパをしてくださった皆様ありがとうございました

情報をくださった皆さん、本誌にご登場いただいた皆さん、ご協力ありがとうございました！ 多くの皆さんのお力をお借りしました。

写真・情報提供他、ご協力ありがとうございました！

足立区役所、飯田一男、金子正雄、佐賀克巳、千住本氷川神社、千住仲組協議会、
松崎町のみなさん、各町会のみなさん（敬称略・50音順）

♪お楽しみに！

次号(VOL11)

特集は：

千住の年中行事

PART3

他



お願い！ その2

- スタッフを募集します！

ボランティアスタッフですが、面白そうと思う方、ご連絡ください。特に身軽に動いてもらえる人好きなスタッフを募集しています。▼取材にまわれる方▼写真を撮れる方▼MAC(クオーク) ユーザーで版下作業をしていただける方▼宛名書き配送などの出来る方▼配達できる方などなど…

- 千住の面白いヒト、もの、こと、募集します！

なんでも、千住の情報を教えてください。お手紙、FAX、お電話などでよろしくお願いします。

町雑誌千住はここで買えます！

- 千住旭町/アサヒ書店 旭町歯科医院 喜田家ルミネ
店 太洋堂書店 とんかつもりき 丸善ら・がある よ
しだや●千住東町/横田青果店 ヘアーサロンノヒラ
目/和泉屋本店 喫茶蔵 コバガーデン 鈴重精肉店 焼
前田クリーニング店 山本園 ゆうらいく 賛生堂鍼灸整
子庵 紅茶とケーキセピア 五味鳥 千住の永見 ぶつくら
バセ 秋田物産まさき シーズマルオカ 三河屋 リー
珈琲物語 メンズギャラリー福田 ふくとみ 渡辺優文堂
楽屋●千住五丁目/梅の湯 ラ・ルミエール ●千住大川
口書店 ●千住寿町/大黒湯●千住元町/佐原治泉 タカラ
歯科医院 穂高●千住柳町/キッチンアントレ 一富士
屋●千住竜田町/アリス 大戸屋食堂 喜田家本店 大衆
煎餅 肉の平川屋 インテリアホシノ工芸●千住中居町/
コロラド●千住宮元町/居酒屋せきね 高原書店 鳥谷整
ラード まじ満●千住河原町/不動産のカサマ プチテラ
寺堂薬局 徳田屋食堂 や満ざき●千住緑町/魚源 オリー
屋 中村屋 パレット 丸安青果店
田家花畑店 喜田家五反野店 喜田家竹の塚店 喜田家梅
吉 ブックスーション小泉 ブックスひでき
ひできください。
店を募集します!ご協力いただけるお店はご連絡ください。

参考文献 富士講の歴史・岩科小一郎(名著出版) 世界大百科事典(平凡社) 日本大百科全書(小学館) 日本年中行事辞典(角川書店) 線目と駄馬子唄の玩具・多田健雄編(京都書院) えんいち・五十嵐豊子(福音館書店) あそび場マップ(千住児童館・老人館) 東京牛乳物産局 黒川國信(新潮社) 「ヨーロッパでてきなごみ物語」松田美夜子(日報) 『日本大百科全書』(小学館) アサヒグラフ1988.8.19号(朝日新聞社) 伊豆長八作品集上下(松崎町振興公社) 千住宿民俗誌(名著出版) 足立の今昔(足立区役所) 足立の史話(足立区役所)

「ペラントの花はながついに咲きそうです。チューリッパ、ムスカリなどなど、春だなくとホーとして、この種目だ。」(福恵) 路地歩きは私の極上の愉しみ。自分なりの視点で歩けば新発見もゾクゾク! 「我こそお散歩王なり」という猛者、挑戦者も大募集(川上) 春です。千佳暮らしはやはり一年、今年も去年同様ですばらしい映画や音楽として人々に出合い、刺激を受けつつ、よしよし生まれた街よりも、育った街よりも、住んできた街よりも、千佳3丁目の路地に詳しくなった90年代最後の夏でした。(む) (路地取材は昨年夏を中心に行いました) 久々の題材は昨年夏中心に行いました。久々のデザイン、内容が良かったので楽しくやりました。なぜなら火火マニアだから。土浦の花火もオスス。鈴木玲子。本紙の取材で知り合えた町の皆さんとご挨拶する事が増えてきました。町の方々が私達を受け入れていたでいてというところ。また、路地の活動に興味を持っていただけているということ。そんな風な印象をいただけるこのころです。千佳の町の元気を探検している私達に、がんばらうって勇氣を与えてくれています。(A) 千佳の町がはえんでくれてます。(A) 千佳七福神の甘酒、あんなおいしい甘酒のんだのはじめて。安いお茶碗いっぱいあって感激。これから毎年行くぞー! (Y) 身近な間蔵さんとの出会いが、日頃の行いを振り返さずかけになっていたようです。(KM) 確定申告のこの時期、今年は頑張ろうって、今年いっている。すく昔な一年だったはずなのに、なぜか、売りがは少し上がっている。(K) 路地の店がお好み焼きみひらのが、取材後閉店され、とてもとても残念です。サイターを「逃走して」くださった。笑顔美人のおかみさん! 再開はないのでしょうか? 千佳の路地であつてほしい一店です。もうひとつ、千佳縁出の金八先生は、今までとひと味違、おもしろいですね!(E)

編集後記

町雜誌千住

- VOL.1 千住の祭
VOL.2 銭湯めぐり
VOL.3 飲み処食べ処
VOL.4 千住宿を遊ぼう
VOL.5 千住の餅菓子屋
VOL.6 映画文学の
舞台となった千住 前編
VOL.7 映画文学の
舞台となった千住 後編
VOL.8 千住・手仕事 職人の世界
VOL.9 千住・手仕事 職人の世界
千住の年中行事

バックナンバー販売店
アサヒ書店
仁寿堂薬局
ぶっくらんど
ブックスくまくら
渡辺優文堂
北嶋書店
高原書店
丸善がある北千住ルミネ
書肆アクセス（神保町）



露店のそぞろ歩きの思い出は、いろいろあり懐かしい。戦災の焼け跡に露店を出店したヤミ市が一般的な風景だった時代もあった。千住でも昭和24・5年頃までは、各所に露店が見られた。戦災で家を失ったり、強制的に店を壊された商店主や、復員して職がなく、再生の第一歩として露店を選んだ人が多かった。昭和24・5年頃に、北千住駅の東西入口からつづく通りの歩道に露店が並び賑わった。しかし、地下道は今と違って切符を買わないと通り抜けられなかったもので、東口西口の交流はあまりなかった。人々は、1丁目の大踏切、あるいは仲町や5丁目のガードをくぐり目的地へ行った。

国道4号線（日光街道）の千住新橋に都電発着所があり、そこから千住2丁目の交差点まで、戦後の一時期やはり露店がでて賑わった。北千住駅の西口商店街も、やっと夜店が出て賑やかになった頃だった。商品は、ヤミ物資の生活用品、古着類が主だった。また食べ物は、イモの雑炊、ふすま入り小麦粉のせんべい、カストリ焼酎が隠れて売られていた。イトーヨーカドーの社長さんも、現在の三菱信託銀行前で古着の販売が始まりで、千住のヨーカドーが全国一号店であることを知る人も少なくなった。全国の主要都市に、鳩のマークのないところがないほどに発展させたその努力に敬意を表したい。

千住の露店の原点は、やはり赤門寺（勝壽寺）のボロ市ではないかと思う。江戸時代から続いていた伝統あるボロ市が、昭和36・7年頃に自然消滅したことが残念でならない。商家・農家の不要な生活道具、農機具、古着（ボロ）など並べて物々交換したり売買したりで盛況だった。現在のリサイクル運動の元祖だと思う。

4

この連載は、千住の町を西へ東へ歩くだけでなく、少～し過去へも歩いていただくための道しるべです。

露店



また赤門寺の縁日は、正月と7月の15・16日、昔の蕨入りの日に開かれた。おえんま様の縁日だ。この日は、地元千住の子どもはもとより、草加・越谷の近郷近在の子どもたちがお年玉や小遣いを持って集まり、身動きもできぬほどに盛況だった。門前から旧道（旧日光街道）まで、側道は見番横丁の入口まで、露店が所狭しと並び、露天商の「かき入れ」時であった。境内には見世物小屋が

建ち、番台のオジサンはシャガレ声で「お代は見えてのお帰りに」の名セリフ。今でも耳に残る。「嘘を言ったり他人を騙すとおえんま様に舌を抜かれる」と言われて、えんま堂の扉越しにおそろおそろおえんま様の顔をのぞいたのが面白かった。

出店はソースづけのフライ、わたあめ、カルメラ焼き、べっこうあめ、ゆで卵、焼きいもなどで、現在のような油っこいウィンナー類などはなかった。

千住独特の市もあった。草市、7月初旬に一日だけ、千住河原町の土手で開かれた。お盆の用品専門に売る市で珍しい。仏壇に飾る草物、まこも、みそはぎ、ほおすき、おがらなど、今の人にはわからぬばかりだが、お盆にはなくてはならないものばかり。東京にただひとつの市だったが、昭和54年の青果市場の移転を機になくなった。

露店は、忙しくて歳時記も忘れて働いていた私たちに、季節の変わり目を教えてくれた。昔の夜店の明かりは、薄暗かった。蠟燭、カーバイトを原料にしたアセチレンガスが主力だった。夜店の通路にカーバイトの匂いが漂い、あの匂いを嗅ぎながらかき氷を食べたのが懐かしい。

文／郷土写真家 石坂満

※写真真実は2000年1月の赤門寺縁日

町雑誌「千住」VOL.10 2000年4月発行

発行 千住・町元気探検隊 〒120-0044足立区千住緑町2-33-23TEL 03-3870-7055

編集 町雑誌千住編集室 〒120-0034足立区千住3-52 TEL & FAX 03-5244-2158

編集人 大野順子 舟橋左斗子

（郵便振替口座）00140-4-103836

STAFF 取材・原稿／荒居康明 板橋陽子 金澤昌代 川上佳子 高頭恵美 藤井紀章 村重秀彰
写真／川上佳子 熊谷浩 舘又将文 村重秀彰 横井千恵 特別協力／石坂満 デザイン協力／鈴木玲子
イラスト／荒居康明 岡本杏子 高頭恵美 中田江利 MOMO 協力／稲垣香苗 稲葉あや子 大江明俊
大野清士 岡野有美子 加藤義久 川口登紀子 鯨井博 篠崎啓子 原島陽子 穂原恵子 村田操 山崎正樹

本誌掲載記事・写真・イラスト等の無断複写（コピー）・複製・転載を禁じます。

